

# 夢つむぐ島

～島人みんなで織り上げる未来～

## シリーズ2. 「育つ」世代のために

### <島の現状と施策の方向性>

第2次総合計画策定にあたって実施された住民アンケート結果を見ると、「久米島は子育てしやすい環境か」という質問に対し、回答者のうち7割の人が「はい」と答えています。その理由を見ると、トップが「自然の豊かさ」であり、島の自然が子育て環境に大きくプラスになっていることがわかります。同時に「家族、親戚が育児に協力的」となっており、親戚間での助け合いの中で子育てが成立している状況が見てとれます。一方、親戚等を頼れない住民や島外出身者、特に共働き世代の親からは病児・病後保育やファミリーサポート、小学生の放課後の居場所づくりなど託児に関する子育て支援サービスの充実を希望する声が多くあがりました。

ワーキングチームの「子育て」グループでは、総合計画で実現してほしいこと上位に「子育てと仕事を両立できる制度・環境づくり」「子どもの遊び場の充実などがあがり、『久米島町子ども・子育て支援に関するニーズ調査（就学前児童）※』では、子育て支援への期待として「子連れで出かけやすく楽しめる場所の整備」「保育所や幼稚園費用のサポート」「安心して子どもが医療機関にかかれる体制の整備」等が上位にあがっています。また、近年久米島では「子どもの健康状態」が深刻な問題となっています。平成21年より町が小学5年生から高校3年生までを対象に行っている健康調査によると、島の子どもの肥満率は、男子が全国平均の1.5倍、女子は全国平均の2.0倍と多く、また、腹部肥満、高血圧や糖尿病予備群などなんらかの生活習慣病の異常をもつ生徒が5割もいることがわかりました。

同時に、福祉課や医療関係者からは発達障がいもしくはその疑いのある子どもたちが増えているにもかかわらず、発達障がいに関する知識不足から両親が気付かない、若しくは認めない等の理由で、適切な支援ができない状況も報告されています。発達障がいに関する理解促進と支援体制の強化が必要です。

これらの現状を踏まえ、島の特性や住民の声、財政状況を鑑み、久米島町らしい子育て支援策を打ち出すことが、若い世代の島外への流出防止ならびに子育て世代の移住者の呼び込みにもつながるものと考えます。

### <計画に位置づけられた事業の成果や課題など>

#### ●児童福祉総務事業（ファミリーサポートセンター）（福祉課）

事業内容	子どもを一時的に預けたい親と預かる側との間に入り、橋渡し役とし事務を行い、親の子育て負担の軽減に繋がる業務を担っています。（預けたい側、預かる側の両方とも登録が必要です）	
成果目標	ファミリーサポート会員数	H30実績 ⇒ 94名（H30.7事業開始）
事業効果	短時間でも子どもを預けることができる為、親の子育て支援に繋がっています。	
改善点又は今後の取組方針	ファミリーサポート会員を増やすことと、制度を利用しやすくなるような仕組み作りが必要であると考えます。	

#### ●こども健康増進事業（福祉課）

事業内容	小学校5年生から高校3年生までの児童生徒を対象に保護者の同意の下、各学校にて生活習慣病健診を実施しております。健診結果をもとに経過観察対象者へは手紙にて支援を行い、指導対象者へは個別の改善のための指導を行っています。要医療対象者は医療機関受診後の結果と主治医の指示をもとに改善のための個別支援を行います。	
成果目標	要医療対象者をH29実績より50%減少させる	H29実績 ⇒ 70人 H30実績 ⇒ 67人（前年度比5%減）
事業効果	児童生徒へ生活習慣病健診を実施することにより、身体測定結果だけでは把握できない健康の状況が把握でき、将来の生活習慣病の発症予防に対する児童生徒の知識を高めることが出来ます。そして、児童生徒の糖尿病予備群の減少に繋がっていくと考えます。	
改善点又は今後の取組方針	これまで学校現場において実施しているが、授業時間の確保の課題があり、実施体制の改善を検討する必要があります。	